

『花と木のかおりでまちを みたしましょう』

この言葉をご存知ですか？これは苦小牧市民憲章の一文です。市民憲章は昭和60年に、市民が豊かな自然と大きな可能性に満ちたこのまちを愛し、未来へ歩むために制定されました。

苦小牧市は港と空港が近くに位置する優位性をいかし、工業を軸として大きく成長してきました。工業のまちだからこそ、樽前山、ウトナイ湖などの身近で豊かな自然との共存が欠かせないという考え方が、人間環境都市宣言や市民憲章にあらわれています。この精神に基づき、市民が自然に親しむことのできる場所を多くつくるため、計画的に公園整備を進めてきた結果、人口一人あたりの公園面積は、道内10万人以上の都市で第一位となっています。

北海道平均
27.2㎡

全国平均
10.0㎡

苦小牧市
60.3㎡

一人あたりの公園面積（緑地公園課調べ）

※平成24年3月31日現在

まちの公園が持つ役割

苦小牧市には大小合わせて322カ所の公園があります。これらの公園はまちづくりに必要な、さまざまな役割を持っています。

自然と触れ合える場として

公園には草木があり、春から夏にかけては新緑や花が、秋は色付いた葉や実が、私たちの目を楽しませてくれます。また、野鳥や虫たちの生育の場であるなど、自然を身近に感じることのできる場となっています。

いざという時の避難場所として

公園は、地震などの大規模災害時には、火災延焼や危険物から一時的に身を守るための避難場所として指定されています。いざという時に市民の皆さんを守る場所となるため、日ごろから近くの公園を確認しておくことが重要です。

地域交流の場として

公園のオープンスペースは、子どもからお年寄りまで誰でも利用することができます。遊びや憩いの場です。また、レクリエーションや町内会のお祭り、盆踊りなどのイベント会場として、地域の交流やコミュニティ作りに欠かせずことのできない場となっています。

新たなスポット！

錦大沼ハナショウブ園

園の写真は4ページ左下

錦大沼公園の入口にあたる一画に、約70品種、1万株のハナショウブを植栽しています。はなしょうぶの会や苦小牧ロータリークラブの皆さんの協力のもと、園路やベンチなどの整備を進めています。毎年7～8月には見ごろを迎え、紫、白、黄色と色とりどりの「市の草の花」ハナショウブが訪れた方を癒してくれます。

市の草の花ハナショウブ

ハナショウブはアヤメ科の宿根草です。市民憲章制定1周年を記念し、市の草の花として昭和61年に制定されました。花言葉は「うれしい知らせ」、「心意気」。



ハナショウブ1万株達成セレモニー

1万株の達成を記念して、7月20日(日)10時から開催します。とまチョップが遊びに来るほか、撮影会などもおこないますので、ぜひハナショウブの花を見に来てください。

インタビュー

市民とつくるハナショウブ園

「市の草の花」であるハナショウブを広く知ってもらいたいとの思いで、平成21年に会を結成しました。活動としては、市への寄付を始め、雑草取りや茎切りなど、園を維持していくお手伝いをしています。やはり花は見ていると癒されますし、ハナショウブは色とりどりで豊富な品種がありますので、見ていて楽しいですね。今後も多くの方に足を運んでいただき、ハナショウブを知ってもらえるように、日本一のハナショウブ園を目指し、市と協力しながら活動していきたいですね。

はなしょうぶの会

わかばやし としかず
会長 若林 利和 さん

市内8つの企業・団体で構成。ハナショウブ園の整備に役立てて欲しいと、市へ毎年ハナショウブの寄贈などの活動を行っている

